

大会名称: 第3回FIBA U-17女子バスケットボール世界選手権大会

開催場所: City Arena Pilsen(チェコ・プルゼニ)

試合区分: No. 245 女子 決勝ラウンド・5-8位決定戦 コミッショナー: Swee Sung MAH(SIN)

期 日: 2014(H26)年7月5日(土)

主審: Susana GOMEZ LOPEZ(ESP)

開始時間: 13:00

副審: Ahmed Darwish Abdullah AL BULUSHI(OMA)

終了時間: 14:40

Milosav KALUDJEROVIC(MNE)

カナダ

(通算4勝2敗)

○  
46

8 -1st- 8  
11 -2nd- 12  
14 -3rd- 12  
13 -4th- 13  
-OT1-  
-OT2-  
-OT3-

●  
45

日本

(通算3勝3敗)

第3回FIBA U-17女子バスケットボール世界選手権大会は第8日目。立ち上がりから互いにシュートが決められず、ロースコアな展開となる。20-19と日本が1点リードして迎えた後半、カナダのインサイドの攻撃を封じるべく、中のディフェンスを強化するものの、逆に外角シュートを決められ、我慢の時間帯が続く。最終ピリオドに入っても一進一退の攻防が続く、リードチェンジを繰り返しながら試合が進む。終盤、日本は#6西岡のミドルショットでリードするが、残り11.1秒、カナダのスローインから#8BREWERに決勝打となる5本目の3Pシュートを許し、タイムアップ。45-46、日本は劇的逆転で敗れ、7位決定戦へとまわった。

第1ピリオド、日本は#4加藤、#5水野、#6西岡、#8遠藤、#11中田でスタートする。日本は#11中田がインサイドの1on1からフリースローのチャンスを得るものの、決めきることが出来ない。一方のカナダも、日本同様にインサイドの#15CHANDLERにボールを集めて攻撃を仕掛けるが、得点が伸び悩む。その後も互いに得点が入らず、7分経過して2-6とロースコアな展開に。しかし残り3分を切り、日本は#13赤木がドライブからバックシュートを決めると、さらに#4加藤、西岡の得点で応戦する。8-8、同点で終了する。

第2ピリオド、日本はメンバーを変え、#4加藤、#6西岡、#8遠藤、#11中田、#13赤木でスタートする。開始早々、#13赤木のシュートで逆転に成功した日本は、続けて#11中田のドライブが決まり、ペースを掴む。しかしカナダも#11CARLETONの3Pシュートや、#13WILLOCKのゴール下で一歩も譲らない。その後も点の取り合いが続く、20-19と日本が1点リードで前半を終了する。

第3ピリオド、日本はスタートの5人に戻してゲームに入ると、相手のインサイドの攻撃を封じるべく、中のディフェンスを強化する。しかし外角のディフェンスが甘くなり、カナダにアウトサイドシュートを打たれてしまう。序盤こそ、カナダのシュートが決まらず助けられるが、開始3分半過ぎ、#11CARLETONに1本目の3Pシュートを許すと、そこから#8BREWERに3本の3Pシュートを許す。その間、日本は#8遠藤、#13赤木のドライブや、#4加藤の速攻からの得点、さらに苦しい時間帯には#6西岡、#11中田のフリースローで食らいつく。32-33、日本1点ビハインドで最終ピリオドへ。

第4ピリオド、日本は第2ピリオド同様、2ガードの布陣でゲームに入る。カナダはインサイドを起点とした攻撃を仕掛けると、#7GARVENがゴール下シュート、内外のバス回しから#6VAN LEEUWENが3Pシュートを決める。対する日本は、#8遠藤、#13赤木のドライブ、#4加藤の速攻からの得点で応戦し、その後も一進一退の攻防が続く。残り4分11秒、#6西岡がオフェンスリバウンドからシュートを沈め、39-38で逆転に成功すると、その後は日本がリードして試合を進めていく。残り30秒を切り、カナダ#8BREWERにこの試合4本目の3Pシュートを許すと、43-43の同点に追いつかれる。日本はタイムアウトを取り、#8遠藤のドライブに#6西岡が合わせてジャンプシュートを決めるが、残り11.1秒、カナダスローインから土壇場でまたもや#8BREWERに決勝打となる3Pシュートを決められ、タイムアップ。45-46、日本は1点差で敗れた。

次戦、7月6日(日) 13:30(日本時間 20:30)より、7位決定戦をフランスと対戦する。

担当: 公益財団法人日本バスケットボール協会

FIBA(国際バスケットボール連盟)